

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	第	号
------	---	---	---

氏 名 CHHUOR Sryneath

論 文 題 目

Export Orientation and Economic Growth:
Implications for Cambodia's Potential Industries
(輸出志向型経済成長に関する研究
—カンボジアの潜在的成長産業への含意—)

論文審査担当者

主査 名古屋大学 教授 藤川清史
委員 名古屋大学 教授 梅村哲夫
委員 名古屋大学 准教授 新海尚子
委員 埼玉大学 准教授 サムレト・ソワンルン

論文審査の結果の要旨

1. 論文の概要と構成

近年のカンボジア経済は好調であるものの、経済を牽引している輸出はいくつかの課題を抱えている。まず、輸出品目の多様化は進んでおらず、上位 5 品目(アパレル、靴、生ゴム、自転車・バイク、野菜・果物)が輸出全体の 60%を占めている。また、トップのアパレル産業をはじめとしてその他の産業も同様であるが、労働集約的で付加価値率の低い製品が中心である。付加価値率や品質という点で、隣国と比較して 10 年程度遅れているといわれている。そして、カンボジアでは輸出入の荷役作業および通関等の諸手続きが効率化されておらず、このような高い「取引費用」が輸出の阻害要因にもなっている。

以上のようなカンボジアの輸出事情を背景として、本論文は次の 3 点を研究目的としている。

- 1)産業連関を考慮して、輸出拡大を推奨すべき有望産業を特定すること。
- 2)輸出促進政策の有望産業への影響をみること。
- 3)貿易手続きの円滑化の経済への影響をみること。

以下では、各章の内容を要約する。

第 1 章では、この研究の問題意識と論文の構成が述べられる。第 2 章では、カンボジアの貿易の状況、貿易政策、貿易手続きの現状などが説明される。第 3 章では、貿易と経済成長に関わる先行研究が紹介される。

第 4 章では、産業連関構造に鑑みて、所得(付加価値)拡大につながる有望産業を特定する作業を行った。ここでは、後方連関効果(中間需要の拡大)、所得拡大、雇用拡大、外貨獲得、および仮想的抽出法での影響度の 5 つの指標を用いた。その結果、農業、食品加工産業、ゴム産業、観光(ホテル・レストラン)産業が有望であることがわかった。アパレル産業は、現在のシェアは大きいものの、カンボジアの所得拡大にはさほどつながっていない。食品加工産業やゴム産業では、国内での強い後方連関がある。農業はこれまで余り注目されることがなかったが、食品産業とゴム産業への原料供給産業としても重要である。

第 5 章では、応用一般均衡モデルを用いて、第 4 章で示した産業(農業、食品加工、ゴム)の輸出の変化の国内経済への効果を分析する。世界需要の拡大はカンボジア経済に良い影響を与えるが、農産品の輸出拡大よりも食品加工産業やゴム産業の拡大による後方連関効果(中間需要の拡大)がより重要であることがわかった。つまり、農産品の輸出促進よりも農業から農業関連製造業への国内サプライチェーンの整備が望まれる。輸出価格の変動はカンボジア経済には悪影響を与える。しかし、農業関連産業が受ける影響は、アパレル産業が受ける影響よりも少ないことがわかった。このことか

論文審査の結果の要旨

らも、輸出産業の多様化が望まれる。また、農業関連製造業の労働者は非熟練労働者である。これらの産業の輸出振興は非熟練労働者の経済厚生改善につながるが、マクロ経済の視点からは、これらの産業での職業訓練が望まれる。また、政策シミュレーションでは、当該産業の保護政策よりも輸出補助金政策の方が有効であることがわかった。

第6章では、前章と同様の応用一般均衡モデルを用いて、貿易手続き円滑化の経済分析を行った。貿易手続きの円滑化とは、荷役業務や通関手続きの時間短縮であるが、モデル上ではFOB(関税や保険を除いた)輸出価格の低下として取り扱われる。輸出と輸入の両方の価格が低下し数量が増加することによって雇用と家計所得が増加し、さらに輸入価格の低下も家計消費の増加を後押しする。また、貿易手続きの円滑化の影響は産業ごとに異なるが、農業と機械産業の輸出で大きく、ゴム産業では小さかった。このことは、通関手続きの円滑化は、カンボジアの輸出多角化にも有効であることを示唆している。

2. 評価

本論文は、以下のような学術的に評価されるべき点を含んでいる。

1)カンボジアでの産業連関分析

カンボジアでの産業連関分析の歴史は浅く、産業連関表を用いた分析事例はほとんどない。カンボジア経済を対象にした産業連関分析の数少ない研究の1つである。またカンボジアには産業連関表に対応した雇用表が公表されていないが、筆者は雇用表を作成し分析に用いた。

2)CGEモデルの開発

CGEモデルでは、家計を地域(都市/農村)および熟練度(高/中/低)に分割した。またCGEモデルでは失業が存在しないと想定され、そのことが問題視されることが多いが、本研究のモデルでは、フィリップス曲線を導入し労働供給を内生化することで、カンボジアの労働市場で失業が存在する構造になっている。

3)貿易手続き円滑化のモデル化

CGEモデルで、カンボジア経済を対象にして、貿易手続き円滑化をモデル化したはじめての試みである。GTAP(Global Trade Analysis Project)モデルが公表しているTariff equivalents of trading time(取引時間と等価な関税)を用いて、「貿易の容易さ」という質的な事象のモデル化に成功している。

本研究の成果の一部は1編の公刊論文として出版され、1編は出版予定である。また、国際開発学会および産業連関分析学会での研究発表が行われている。

ただし、この論文には、次のような課題もある。

論文審査の結果の要旨

1)ダイナミックな視点

本論文では、カンボジアでの有望輸出産業として、農業、食品加工産業、ゴム産業、観光産業(ホテル・レストラン)を挙げているが、これらは多くの開発途上国が戦略的産業と位置付けている労働集約的な産業である。カンボジアの持続可能な成長のためには、輸出で獲得した外貨をどのようにして新産業の育成に結び付けるかといった、よりダイナミックな視点が求められる。

3)ハンディーで使いやすいモデルの開発

本論文で用いられた CGE モデルは、PEP(Partnership for Economic Policy)ネットワークによって開発された汎用型モデルであるが、構造がやや複雑であり、わかりにくい部分もある。著者本人の研究に適した、ハンディーで使いやすいモデルの開発が求められる。

4)ミクロの経済分析

本論文の分析はマクロ分析で終わっている。筆者の関心はカンボジアの貧困削減にもあることから、ミクロデータを用いて、プロプアーな経済成長を促進するための輸出政策という視点が求められる。

また、現在のカンボジアでは、カンボジア統計局による公式の産業連関表が準備中である。政府公式統計を用いた CGE モデルの開発にも挑戦してほしい。

ただし、これらの改善は、著者が今後の研究活動の中で行なうべき将来的研究課題であり、本論文の博士論文としての価値を損なうものではないと考えられる。

3. 結論

以上の評価により、本論文は博士(国際開発学)の学位に値するものである。